

森林生態系の管理目標について

目 次

1. 森林生態系の管理目標の内容	2
(1) 森林生態系の管理目標	2
(2) 森林生態系の管理目標の達成状況把握のための指標.....	3
1) シダ植物の林床被度の回復	3
2) 植生垂直分布の多様性の回復	10
3) ヤクシカの嗜好性植物種の更新	13
4) 絶滅のおそれのある固有植物種等の保全.....	17
2. 今後のスケジュール	26

林野庁 九州森林管理局
(一社) 日本森林技術協会

1. 森林生態系の管理目標の内容

平成 29 年度第 2 回 WG 及び平成 30 年度第 1 回 WG において、屋久島の森林生態系の特徴・現状、森林生態系管理目標の必要性及びその設定方法が示され、平成 30 年度は具体的な森林生態系の管理目標の検討を行うこととなった。

このため、以下に森林生態系管理目標とその目標達成状況を把握するための指標を提案する。

(1)森林生態系の管理目標

平成 29 年度第 2 回 WG 及び平成 30 年度第 1 回 WG では屋久島の森林生態系の特徴・現状を整理して森林生態系管理目標の必要性を示し、目標案を提示した。

以下にその内容を再度整理するとともに目標案を再掲する。

屋久島の森林生態系の植生には、次のような特徴がある。

- ▶ 大陸東岸の多雨環境を反映しており、シダ植物群落が発達し、スギ天然林が存続
- ▶ 急峻な溪流が多く、溪流沿いに植物群落が発達
- ▶ 氷期にも暖温帯林が存続し、海岸線から山頂部にかけて多様な植生の垂直分布が成立
- ▶ 固有種が多く、今なお新種の発見が続く

一方、近年、ヤクシカによる植生への影響が生じており、次のような状況となっている。

- ▶ 林床性シダ植物群落が消失し、ヘゴの更新阻害が起きている
- ▶ 溪流にヤクシカがアクセスし、溪流沿い植物群落が減少している
- ▶ 各標高帯で植物の多様性が減少し、ヤクシカの嗜好性種の更新阻害が起きている
- ▶ 固有種の多くが減少し、希少種になっている

また、屋久島の森林生態系に関する計画として、①屋久島世界自然遺産地域管理計画、②屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画、③第二種特定鳥獣（ヤクシカ）管理計画があり、計画策定時に得られた調査結果からヤクシカによる植生への影響が遺産地域全体に及んでいることが明らかとなったが、これらの計画に植生回復に関する具体的な管理目標は示されていない。こうした状況の中、ヤクシカの個体数管理目標だけでなく、植生回復目標を設定し、森林生態系全体の順応的管理を行う必要性が高まっている。

このため、屋久島の森林生態系を特徴づけ、かつ顕著な影響が生じている植生の回復を図る次の目標案を設定する。

- 1) 屋久島の多雨環境を反映したシダ植物の林床被度の回復
- 2) 屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値（OUV）である植生垂直分布の多様性の回復
- 3) ヤクシカの嗜好性植物種の更新
- 4) 絶滅のおそれのある固有植物種等の保全

(2)森林生態系の管理目標の達成状況把握のための指標

森林生態系の管理目標の達成状況については、「屋久島世界自然遺産地域モニタリング計画」に基づき実施している各調査結果を活用し、指標を設定することによって把握するものとする。

以下に森林生態系管理の各目標の達成状況把握のための指標及び具体的な把握方法、実施地域を示す。

1) シダ植物の林床被度の回復

屋久島は、年間降水量が平地部で4,000mmを越え、山岳地帯では8,000～10,000mmと非常に多く、シダ植物群落はそうした屋久島の多雨環境を反映した植生である。しかしながら近年においては、保護柵内外でシダ植物の被度に差が生じており、保護柵外では低くなっている(表1～表4)。このため、保護柵内の被度をベースとした指標が考えられるが、柵内はヤクシカによる影響が全くない不自然な環境(ヤクシカ個体数密度ゼロ)のため、柵内と同じ被度まで目指す必要はないことに留意する必要がある。

柵内に対して指標とすべき比率については、採食の影響により植物が縮小再生産して矮小化する等の影響が生じないレベルにする必要があると考えられる。経験的に採食等の影響が植生被覆の半分程度であればこれらの影響は生じないだろうと言われているため、シダ植物の林床被度の回復について次の指標を設定する。

<指標案> 柵外のシダ植物の被度を柵内の被度の50%を目安として回復させる。

シダ植物の林床被度については、後述の指標案と同様に2000年代のシダ植物の被度を目安にすることも検討したが、2000年代には既にシダ植物の被度が低く、現状よりも悪い場合があるため採用しなかった。

【目標達成状況の把握方法】

前記モニタリング計画に基づき実施されている植生調査の結果を基に植生保護柵外のシダ植物の被度を柵内の被度と比較し、目標達成状況を把握する。

なお、これまで前記モニタリング計画に基づく植生調査ではブラン・ブランケによる手法で被度調査をしており、その手法では被度4以上が50%以上となる。今後、より定量的に評価するため、被度を%で記録していくことが望ましいが、これまで継続的に記録されてきた手法を変えるため、検討が必要である。

<参考：ブラン・ブランケの被度(優占度)>

被度5：被度3/4以上(75-100%)

被度4：被度1/2～3/4(50-75%)

被度3：被度1/4～1/2(25-50%)

被度2：被度1/10～1/4(10-25%)、又は個体数が非常に多いが被度1/10(10%)以下

被度1：被度1/10(10%)以下で個体数は多い、又は個体数は少ないが被度がやや高い

被度+：個体数は少数で被度は非常に低い

被度r：ごく稀に出現

表 1 小杉谷柵 1 (標高 660m) におけるシダ植物被度の柵内外の違い

種名	サブコドラート1			サブコドラート2			サブコドラート3			サブコドラート4		
	柵内	柵外	変化									
ナガバノイタチシダ	1		↘			—	+		↘			—
タカサゴシダ	1		↘			—			—			—
ホウライイヌワラビ	+		↘	+		↘	1		↘	+	+	—
ホウライヒメワラビ	1	+	↘	2		↘	1		↘	+	+	—
ヤクカナワラビ	+		↘	1		↘	2		↘	+	+	—
オオキジノオ	+		↘	+		↘			—		+	↘
ホソバコケシノブ	+		↘			—	+		↘	+		↘
トウゴクシダ			—	1	+	↘	+		↘			—
ミヤマノコギリシダ			—	+		↘			—		+	↘
コウヤコケシノブ		1	↗	2		↘			—			—
シシラン		+	↗	+		↘			—		+	↘
ミゾシダ			—	+	+	—	1	+	↘	+	+	—
ヤクシマホウビシダ			—	+		↘			—	+		↘
シマヤマソテツ			—	1		↘			—			—
シマヤワラシダ			—	+		↘			—			—
ヤクイヌワラビ			—	+		↘	+		↘	+		↘
ハイホラゴケ		+	↗	+		↘			—			—
アオイガワラビ			—			—			—	1		↘
ナンゴクシケチシダ			—			—			—	1		↘
コバノイシカグマ			—		+	↗			—			—
オニクラマゴケ			—			—			—	+		↘
シマイヌワラビ			—			—			—	+		↘
ウチワゴケ			—		+	↗			—			—
タカサゴキジノオ			—			—		+	↗			—
タカサゴシダ?			—			—		+	↗		+	↘
ヌリトラノオ			—			—			—		+	↘
ヘラシダ			—			—			—		+	↘

表 2 小杉谷柵 2 (標高 720m) におけるシダ植物被度の柵内外の違い

種名	サブコドラート1			サブコドラート2		
	柵内	柵外	変化	柵内	柵外	変化
タイワンヒメワラビ	2		↘	1		↘
イタビカズラ	+		↘	+		↘
ホウライヒメワラビ			—	1		↘
シシラン			—	+		↘
ミヤマノコギリシダ			—	+		↘
オオキジノオ			—	+		↘
ホウライイヌワラビ		+	↗	+		↘
ミゾシダ		+	↗			—
ホソバコケシノブ			—		+	↘
ヤクシマホウビシダ			—		+	↘

表 3 小杉谷柵 3 (標高 700m) におけるシダ植物被度の柵内外の違い

種名	サブコドラート1			サブコドラート2		
	柵内	柵外	変化	柵内	柵外	変化
ヤクシマタニイヌワラビ	1		↘	1	+	↘
コバノイシカグマ	1	+	↘	1	+	↘
ミヤマノコギリシダ	2		↘	1		↘
オオキジノオ	1		↘	+	+	—
ホコザキベニシダ			—	1	+	↘
タカサゴシダ			—	1		↘
ナガバノイタチシダ		+	↗			—
エダウチホングウシダ		+	↗			—

表 4 小杉谷柵 4 (標高 750m) におけるシダ植物被度の柵内外の違い

種名	サブコドラート1		
	柵内	柵外	変化
シマヤワラシダ	3	+	↘
ハウライイヌワラビ	1		↘
トウゴクシダ	1		↘
ミヤマノコギリシダ	+	+	—
アオイガワラビ	1		↘
ミゾシダ	+	+	—
ナガバノイタチシダ	+		↘
コバノイシカグマ		1	↗
オニクラマゴケ		+	↗
オオキジノオ		+	↗

(平成 28 年度屋久島における国内希少野生動植物種保護対策検討業務報告書データより)

また、林野庁事業で実施されたカンカケ6箇所・カンノン・ヒズクシ・愛子2箇所・中間7箇所・中間前岳2箇所・尾之間にある植生保護柵内外にそれぞれ設置されている各プロット(①～④)における2010年度から2017年度におけるシダ植物種の出現の有無を見ると、柵内のプロットの方が多く確認されている。

表5 植生保護柵内外のシダ植物種の確認プロット数

種名	確認プロット数	柵外	柵内	差
ミヤマノコギリシダ	297	139	158	19
ホソバカナワラビ	272	128	144	16
ホコザキベニシダ	172	76	96	20
タカサゴキジノオ	117	51	66	15
ヨゴレイタチシダ	90	42	48	6
カツモウイノデ	89	34	55	21
ヤクカナワラビ	61	27	34	7
コバノカナワラビ	60	27	33	6
ヘラシダ	44	27	17	-10
エダウチホングウシダ	38	18	20	2
オニクラマゴケ	34	23	11	-12
トウゴクシダ	33	9	24	15
ヌリトラノオ	30	8	22	14
コバノイシカグマ	26	8	18	10
ツルホラゴケ	24	12	12	0
オオキジノオ	23	4	19	15
タカサゴシダ	21	3	18	15
コウヤコケシノブ	15	8	7	-1
ナガバノイタチシダ	12	5	7	2
コスギイタチシダ	9	2	7	5
ヒトツバ	7	0	7	7
ホソバコケシノブ	7	1	6	5
イシカグマ	6	2	4	2
コシダ	6	2	4	2
カタヒバ	5	1	4	3
タマシダ	5	1	4	3
ウチワゴケ	5	2	3	1
ウラジロ	4	2	2	0
ハシゴシダ	4	1	3	2
ノキシノブ	3	0	3	3
イワヤナギシダ	3	0	3	3
ハイホラゴケ	3	2	1	-1
ミゾシダ	2	2	0	-2

種名	確認プロット数	柵外	柵内	差
シシガシラ	2	0	2	2
トゲハチジョウシダ	2	0	2	2
ナチシダ	2	2	0	-2
フモトシダ	2	2	0	-2
オオカグマ	2	1	1	0
ヒメハシゴシダ	2	1	1	0
コケシノブ	2	2	0	-2
ユノミネシダ	1	0	1	1
ワラビ	1	0	1	1
ホラシノブ	1	0	1	1
ヘゴ	1	0	1	1
シケシダ	1	1	0	-1

※確認プロット数は、調査年が異なる場合、同じプロットであっても累算して集計。

(平成 22～29 年度 野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業(屋久島地域) 報告書より)

また、最も多く確認されているミヤマノコギリシダについて、調査地点ごと、調査年ごとに柵内・柵外の調査プロット①同士で柵内外の被度を見ると、次のとおりであった。被度については、柵内の方が大きくなるとは限らず、柵外の方が大きい場合もあった。

表 6 植栽保護柵内外の調査プロット①におけるミヤマノコギリシダの被度の違い

調査地点	柵内外	調査年						
		2010	2011	2012	2014	2015	2016	2017
愛子 200m	柵外①			1	1		1	
	柵内①			1	1		1	
愛子 400m	柵外①			+		+		+
	柵内①			+		1		1
カンカケ 400m	柵外①							
	柵内①	+	+	+				
カンカケ 550m	柵外①	1	1	1				
	柵内①	1	1	1				
カンカケ 600m	柵外①	4	4	4				
	柵内①	1	1	1				
カンカケ 700m	柵外①							
	柵内①					1		
カンノン	柵外①							
	柵内①	+	+	+		+		
中間 1	柵外①		2	2			2	
	柵内①			1			1	
中間 2	柵外①		1	1				
	柵内①		2	2				
中間 3	柵外①		2	2				
	柵内①		3	3				
中間 4	柵外①		2	2				
	柵内①		3	3				
中間 5	柵外①		2	2	1			
	柵内①		2	2	2			
中間 6	柵外①		1	1				
	柵内①		1	1				
中間 7	柵外①		3	3				
	柵内①		1	1				
中間前岳下 1	柵外①		1	1		1		1
	柵内①		1	1		1		+
中間前岳下 2	柵外①		2	2				
	柵内①		1	+				

※柵内・柵外にそれぞれプロット①～④が設定されているが、番号に対応関係はない。ここでは、とりあえず柵内外のプロット①のデータを比較した。

(平成 22～29 年度 野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査事業(屋久島地域)報告書より)

2) 植生垂直分布の多様性の回復

屋久島は、北緯 30 度付近では稀な高山を含む島嶼環境を持っており、植生垂直分布は、そうした島嶼環境を反映したものである。また、屋久島世界自然遺産の顕著な普遍的価値にもなっており、東部、西部、南部、北部、中央部において 2000 年代から各標高帯で定期的な調査を実施している。このため、2000 年代については各地区の各標高帯において一定量のデータがあること、また現実的な努力の範囲で 2000 年代の植生の状況に回復できる可能性があると考えられることから、植生垂直分布の多様性の回復について次の指標を設定する。

<指標案> 各標高帯において 2000 年代の植生種数に回復させる。

留意事項として、各標高帯は屋久島世界遺産地域モニタリング計画に基づき実施されている植生垂直分布調査における標高区分（おおよそ 200m 間隔）に合わせるものとする。

【目標達成状況の把握方法】

上記植生垂直分布調査結果から各標高帯の植物種名・種数を抽出して 2000 年代の状況と比較し、目標達成状況を把握する。なお、当該調査では、草本層・低木層・亜高木層・高木層の植生を調査しているが、生育種の存続を見る上で重要と考えられる草本層の結果を比較する。

【目標達成状況の確認地域】

現在九州森林管理局で植生垂直分布のモニタリングを行っている 5 路線 [北部：標高 0m～1400m・南部：200～1600m・東部：200～1000m・西部：0～1300m・中央部：1200～1800m] とする。



図 2 目標確認の実施地域案（青ルート沿いの調査プロット）

【現状】

植生垂直分布のモニタリングの調査で得られた確認種数の経年変化を整理した。

北部地域は、標高 0m から 1400m にかけて 10 区分の標高帯で調査が実施されており、標高 800m 以外の 7 標高帯で減少が認められた。

南部地域は、標高 200m から 1600m にかけて 8 区分の標高帯で調査が実施されており、標高 1200m、1600m 以外の 6 標高帯で減少が認められた。

東部地域は、標高 200m から 1000m にかけて 5 区分の標高帯で調査が実施されており、2001 年から 2006 年にかけてほとんど変化はないものの、2011 年にはいずれの標高帯でも減少が認められた。

西部地域は、標高 0m から 1300m にかけて 8 区分の標高帯で調査が実施されており、標高 200m、600m 以外の 6 標高帯で連続減少が認められた。また、600m の標高帯では 2009 年に増加したものの 2014 年に減少に転じている。

中央部地域は、標高 1200m から 1600m にかけて 4 区分の標高帯で調査が実施されており、2002 年から 2007 年にかけてはほとんど変化がないものの、標高 1200m、1400m では減少が認められ、標高 1600m、1800m では増加が認められた。

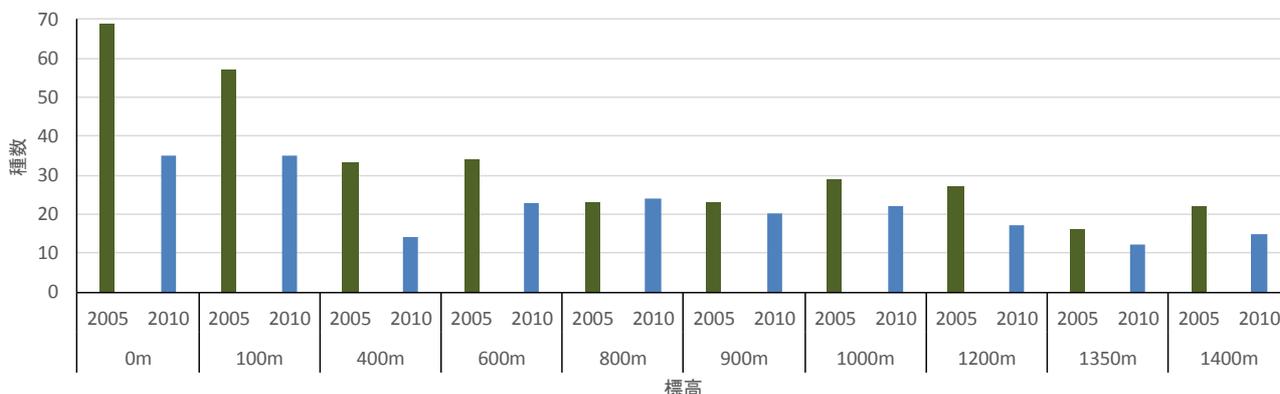


図 3 北部における標高別の植物種数の変化

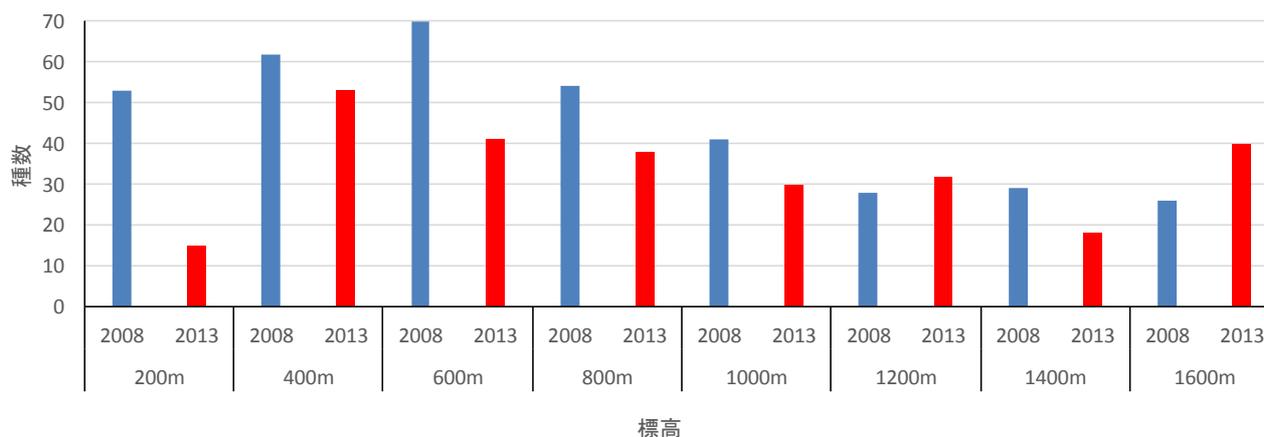


図 4 南部における標高別の植物種数の変化

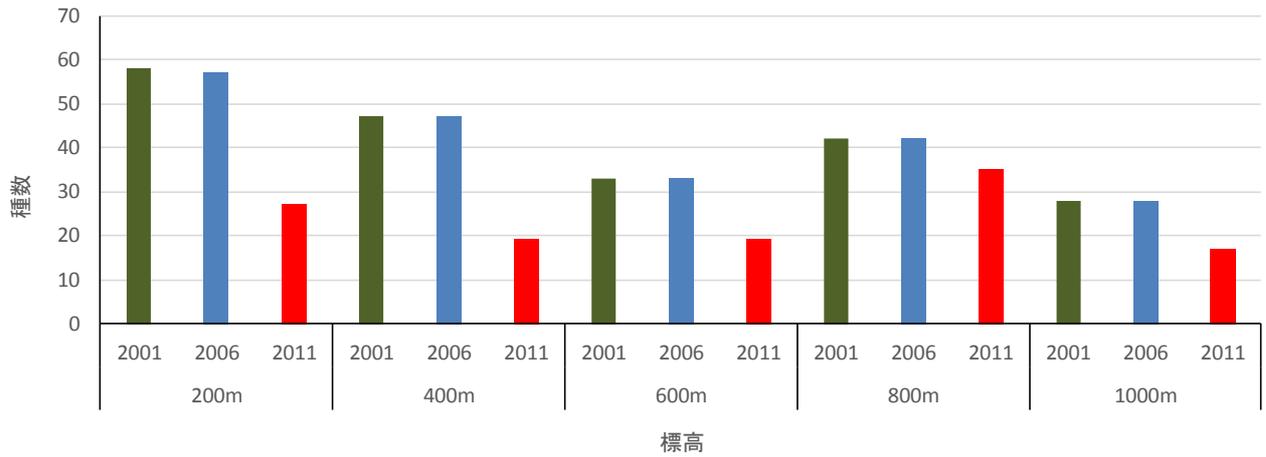


図 5 東部における標高別の植物種数の変化

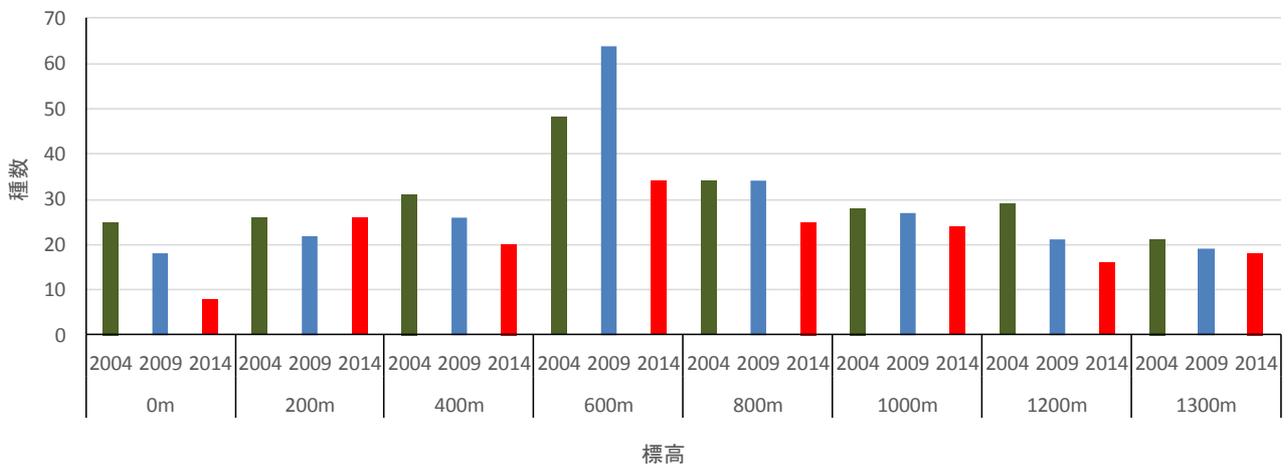


図 6 西部における標高別の植物種数の変化

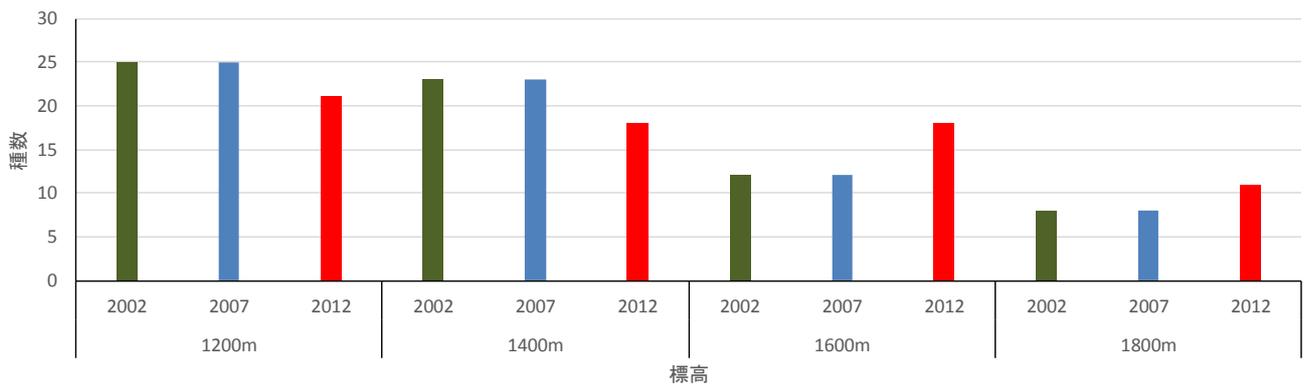


図 7 中央部における標高別の植物種数の変化

3) ヤクシカの嗜好性植物種の更新

先述の植生垂直分布では多様性として確認種数に着目していたが、森林生態系の変化を詳しく見るためには、確認種数のほか、各種の被度の変化等、更新状況も把握することが望ましいと考えられる。特に嗜好性植物種は、ヤクシカによる高い採食圧を受けることから、他の植物種よりも顕著な更新阻害が見られ、屋久島の森林生態系の健全度の把握の上で重要と考えられる。また、先述のシダ植物の林床被度の回復については柵内外の被度の比較であったが、更新状況については経年的な比較が必要である。このため、嗜好性植物種の更新について次の指標を設定する。

<指標案> ヤクシカの嗜好性植物種の確認種数、被度を過年度から維持、増加させる。

【嗜好性植物種の選定】

嗜好性や、実際の食害状況、屋久島の森林植生の特徴等を考慮し、次のとおり選定した。

表 7 嗜好性植物種（指標種）案

分類群	科	種名	備考
シダ植物	リュウビンタイ	リュウビンタイ	
	イワデンダ	ヒロハノコギリシダ (またはノコギリシダ類)	
	ヘゴ	ヘゴ	・屋久島の森林植生の特徴種
草本植物	ラン	ツルラン	・屋久島の森林植生の特徴種 ・環境省 RL 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) ・鹿児島県 RL 絶滅危惧Ⅱ類
	キク	カンツワブキ	・固有種 ・鹿児島県 RL 準絶滅危惧
		ヤクシマアザミ	・固有種 ・鹿児島県 RL 準絶滅危惧
	アカネ	サツマイナモリ	
	イラクサ	サンショウソウ	
	ユリ	ヒメカカラ	・環境省 RL 準絶滅危惧 (NT) ・鹿児島県 RL 絶滅危惧Ⅱ類
木本植物	クワ	イヌビワ	
	ブナ	マテバシイ	・萌芽更新種 ・固有種 (但し、広く国内分布)
	ミカン	カラスザンショウ	
		ヤクシマカラスザンショウ	・固有種 ・鹿児島県 RL 準絶滅危惧
	カエデ	ヤクシマオナガカエデ	・固有種
	クスノキ	ヤブニッケイ	
		ホソバタブ	

【目標達成状況の把握方法】

屋久島世界遺産地域モニタリング計画に基づき実施されている植生垂直分布調査結果から、選定されたシダ植物・草本・木本（実生・稚樹）の出現状況及び被度について経年的な変化を確認し、目標達成状況を把握する。

ここでも先述したとおり、今後、より定量的に評価するため、被度を%で記録していくことが望ましいが、これまで継続的に記録されてきた手法を変えるため、検討が必要である。

【目標達成状況の確認地域】

九州森林管理局で植生垂直分布のモニタリングを行っている5路線〔北部：標高0m～1400m・南部：200～1600m・東部：200～1000m・西部：0～1300m・中央部：1200～1800m〕とする。



図 8 目標確認の実施地域案（青ルート沿いの調査プロット）

【現状】

植生垂直分布のモニタリングの調査で得られた被度の経年変化を整理した。

北部、南部、東部、西部、中央部地域のいずれも、ほとんどの標高帯において減少傾向にある嗜好性植物種が認められたが、逆に増加傾向にある植物種も一部見られた。

表 8 北部地域における嗜好性植物種の被度の変化

種名	0m			100m			400m			600m			800m			900m			1200m		
	2005	2010	変化	2005	2010	変化															
イヌビワ	+		↘			—			—			—			—			—			—
サツマイナモリ			—			—	+		↘	+	+	—			—			—			—
サンショウソウ			—			—	+	+	—	+		↘			—	+		↘	+	+	—
ノコギリシダ			—	1	1	—	+		↘	+		↘			—			—			—
ホソバタブ			—			—			—	+		↘			—			—			—
マテバシイ			—			—			—			—	+		↘			—			—
ヤブニッケイ	1	+	↘	+	+	—			—			—		+	↘			—			—

表 9 南部地域における嗜好性植物種の被度の変化

種名	200m				400m				600m				800m				
	2003	2008	2013	変化	2003	2008	2013	変化	2003	2008	2013	変化	2003	2008	2013	変化	
ホソバタブ				—	+	+		↘	+	+	+	—	+	+		↘	
イヌビワ		+		↗				—			+	↗				—	
カンツワブキ				—				—			+	↗				—	
サツマイナモリ				—	+			↘		+		↗				—	
サンショウソウ				—	+	+	+	—		+		↗		+	+	↗	
ノコギリシダ				—				—		+		↗	+	+		↘	
ヒメカカラ				—				—				—				—	
ヒロハノコギリシダ				—	2	2	+	↘				—				—	
ヒロハミヤマノコギリシ				—			+	↗				—				—	
ヘゴ		+		↗		+	+	↗				—				—	
マテバシイ		+	+	↗		+		↗	+	+	+	—				—	
ミヤマノコギリシダ				—			1	↗				—			+	↗	
ヤクシマオナガカエデ	+	+		↘				—				—				—	
ヤブニッケイ				—		+	+	↗	1	1	+	↘			+	+	↗
リュウビンダイ		+		↗	+	+	+	—				—				—	
	1000m				1200m				1600m								
	2003	2008	2013	変化	2003	2008	2013	変化	2003	2008	2013	変化					
ホソバタブ		+	+	↗				—				—				—	
イヌビワ				—				—				—				—	
カンツワブキ				—				—				—				—	
サツマイナモリ				—				—				—				—	
サンショウソウ		+		↗				—				—				—	
ノコギリシダ				—				—				—				—	
ヒメカカラ				—				—	2	2	1	↘				—	
ヒロハノコギリシダ				—				—				—				—	
ヒロハミヤマノコギリシ				—				—				—				—	
ヘゴ				—				—				—				—	
マテバシイ		+		↗				—				—				—	
ミヤマノコギリシダ			+	↗			+	↗				—				—	
ヤクシマオナガカエデ				—				—				—				—	
ヤブニッケイ	+	+	+	—				—				—				—	
リュウビンダイ				—				—				—				—	

表 10 東部地域における嗜好性植物種の被度の変化

種名	200m				400m				600m				800m				1000m			
	2001	2006	2011	変化	2001	2006	2011	変化												
イヌビワ	+	+		↘				—				—				—				—
サツマイナモリ				—				—				—	+	+		↘				—
サンショウソウ				—				—				—	+	+		↘	+	+		↘
ホソバタバ	+	+	+	—	+	+	+	—			+	↗	+	+	+	—				—
ホソバノコギリシダ			+	↗				—				—				—			+	↗
マテバシイ	+	+	+	—	+	+	+	—	+	+	+	—				—				—
ミヤマノコギリシダ	+	+		↘	+	+		↘				—	+	+		↘	+	+		↘
ヤブニッケイ	1	1	1	—	+	+	+	—	+	+		↘				—	+	+	+	—

表 11 西部地域における嗜好性植物種の被度の変化

種名	400m				600m				800m				1000m				1200m			
	2004	2009	2014	変化	2004	2009	2014	変化	2004	2009	2014	変化	2004	2009	2014	変化	2004	2009	2014	変化
カンツワブキ				—	1	+	1	↘				—				—				—
サンショウソウ				—	+	+		↘	+	+		↘	+		+	↘	+	+		↘
ホソバノコギリシダ				—		+		↗		+	1	↗		+		↗				—
マテバシイ	+	+		↘				—				—				—				—
ミヤマノコギリシダ				—	+			↘				—	+			↘				—
ヤクシマオナガカエデ			+	↗				—				—				—				—
リュウビンタイ				—		+		↗				—				—				—

表 12 中央部地域における嗜好性植物種の被度の変化

種名	1200m				1400m			
	2002	2007	2012	変化	2002	2007	2012	変化
サンショウソウ	+	+		↘	+	+		↘

4) 絶滅のおそれのある固有植物種等の保全

固有種の豊富さは、屋久島を特徴づける森林生態系の重要な構成要素であるが、多くが絶滅のおそれのある希少種となっている。これらの種を失うと生物間のネットワークが単純化する等の影響が生じ、これまでの森林生態系を維持できなくなると考えられる。こうした中、屋久島では平成 23 年度から希少種・固有種の分布・生育状況の調査が行われておりデータが蓄積されつつある。このため、十分ではないものの過年度のデータがあること、また、これらの種の保全のためには、局所的な環境変化や遺伝的多様性の消失等の影響を緩和するための複数の生育地の維持及び個体群存続のための個体数の維持・増加が重要と考えられることから、絶滅のおそれのある固有植物種等の保全について次の指標を設定する。

<指標案> 既往調査地において絶滅のおそれのある固有植物種等の生育確認箇所数・生育個体数を過年度から維持、増加させる。

【絶滅のおそれのある固有植物種等の選定】

絶滅のおそれのある固有植物種等については、既に屋久島世界遺産地域モニタリング計画に基づき環境省事業による希少種・固有種の分布状況の把握調査が実施されている。

当該事業においては、調査対象として、環境省RL・鹿児島県RDB上のカテゴリーが高いシダ、ラン科植物、その他固有性が高い種及び近年屋久島で発見された新種や日本新産種の267種を対象種としている。これらの中から指標に用いる種を選定するのであれば、過年度の調査結果を活用できるほか、本管理目標と当該事業で対象種を一本化でき、選定作業を節約できる。

(参考 1) 環境省事業（「屋久島における国内希少野生動植物種等の保護対策検討業務」）での調査対象種の選定基準

表 13 調査対象種の選定基準

根拠	調査対象種	備考
鹿児島県 RDB (2003 年)	絶滅・絶滅危惧Ⅰ類・Ⅱ類に該当する、地生および着生のシダ類およびラン科植物	
鹿児島県 RDB (2016 年)		
環境省 RL (2012 年)	絶滅・絶滅危惧ⅠA・ⅠB・Ⅱ類に該当する、地生および着生のシダ類・ラン類科植物	
環境省 RL (2015 年)		
環境省 RL (2017 年)		
新種	タブガワムヨウラン タケシマヤツシロラン ヤクシマソウ	近年屋久島で発見された種。
日本新産	タブガワヤツシロラン ヤクシマヤツシロラン	これまで国外では記録があったが、近年屋久島での分布が確認された種。
その他	固有性が高い種等	固有種、固有変種

- ※ 固有性の高い種：固有種および固有変種を対象とするが、固有品種は記録しない。
- ※ 固有種および固有変種は主に「北琉球の植物」(初島、朝日印刷書籍出版、1991年)において“世界に屋久島だけに分布する植物(雑種を除く)”とされている種を対象とする。
- ※ 固有種のうちオオゴカヨウオウレンは個体数が多いことから、調査対象種としない。
- ※ 固有種および固有変種のうち、個体数が比較的多い木本類(ヒメヒサカキ、ヤクシマオナガカエデ、ヤクシマカラスザンショウ、ヤクシマシヤクナゲ)については、記録しない。

(「平成 29 年度屋久島における国内希少野生動植物種等の保護対策検討業務報告書」より表を改変して掲載)

ただし、267種は種数が多く、既往調査で確認されていない種も多い。このため、次のとおり選定種案1と2を提案する。

《選定種案1》

環境省事業の調査対象種 267 種のうち、環境省 RL で CR 標記の 51 種を重点的に見ることとする。デメリットは、選定種のうち既往のモニタリングで確認されている種が少ないこと（16 種のみ）。

表 14 調査対象種 267 種のうち環境省 RL で絶滅危惧 I A 類 (CR) の 51 種

No.	分類群	科名	和名	学名
1	シダ植物	ヒカゲカズラ	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>
2			リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christensenianum</i>
3			コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>
4		コケシノブ	シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>
5			キクモバホラゴケ	<i>Callistopteris apiifolia</i>
6			ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>
7			シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>
8			オオバシシラン	<i>Vittaria forrestiana</i>
9		イノモトソウ	アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>
10			カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>
11		チャセンシダ	フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>
12		オシダ	ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes japonica</i>
13			ムカシベニシダ	<i>Dryopteris anadroma</i>
14			ホソバノヌカイタチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>
15			ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris purpurella</i>
16		ヒメシダ	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>
17			シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>
18		メシダ	ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>
19			タイワンアリスンヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>
20			シビイヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>
21			ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>
22			タカサゴイヌワラビ	<i>Athyrium silvicola</i>
23			シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>
24			ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>
25			ジャコウシダ	<i>Dictyodroma formosana</i>
26			アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>
27			ウラボシ	オニマメヅタ
28		ヒロハヒメウラボシ		<i>Grammitis nipponica</i>
29	離弁花類	フウロソウ	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshiianum</i>
30	合弁花類	キク	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>
31			ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>
32			ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>
33	単子葉植物	サトイモ	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longipedunculatum</i> var. <i>yakumontanum</i>
34			カヤツリグサ	チャボカワズスゲ
35		ラン	タイワンショウキラン	<i>Acanthophippium sylhetense</i> var. <i>sylhetense</i>
36			エンレイショウキラン	<i>Acanthophippium yamamotoi</i>
37			コウシュンシュスラン	<i>Anoectochilus koshunensis</i>

No.	分類群	科名	和名	学名
38			タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>
39			ホウサイ	<i>Cymbidium sinense</i>
40			コカゲラン	<i>Didymoplexiella siamensis</i>
41			タカツルラン	<i>Galeola altissima</i>
42			ヒメクリソラン	<i>Hancockia japonica</i>
43			ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>
44			アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>
45			ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virescens</i>
46			コゴメキノエラン	<i>Liparis elliptica</i>
47			キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>saotenzanensis</i>
48			ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>
49			オオバヨウラクラン	<i>Oberonia variabilis</i>
50			ヤクシマトンボ	<i>Platanthera anboensis</i>
51			マツゲカヤラン	<i>Saccolabium ciliare</i>

※網掛部：未確認種

《選定種案2》

環境省事業の調査対象種 267 種のうち、事業のモニタリングサイトにおいて既往調査で確認されている 91 種を重点的に見ることとする。メリットは、過年度の調査結果を活用できること。ただし、希少性は様々である。

表 15 調査対象種 267 種のうちモニタリングサイトの既往調査で確認されている 91 種

No.	分類群	科名	種名	学名	環境省 RL2017
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR
2			ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	EN
3			ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i>	EN
4		キジノオンダ	ヤマソテツ	<i>Plagiogyria matsumureana</i>	
5			シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>	CR
6		コバノイシカグマ	ホソバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>	CR
7		シノブ	シノブ	<i>Davallia mariesii</i>	
8			キクシノブ	<i>Humata repens</i>	VU
9		イノモトソウ	トゲハチジョウシダ	<i>Pteris setuloso-costulata</i>	EN
10			ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	EN
11		チャセンシダ	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>	VU
12			フササジラン	<i>Asplenium griffithianum</i>	CR
13		ツルキジノオ	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	VU
14			アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	VU
15		オンダ	タイワンヒメワラビ	<i>Acrophorus nodosus</i>	VU
16			ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	VU
17			ムカシベニシダ	<i>Dryopteris anadroma</i>	CR
18			ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>	EN
19			ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris purpurella</i>	CR
20			コスギイタチシダ	<i>Dryopteris yakusilvicola</i>	NT
21			コモチイノデ	<i>Polystichum eximium</i>	VU
22			ヒメシダ	ヒメミゾシダ	<i>Stegnogramma gymnocarpa</i> ssp. <i>amabilis</i>

No.	分類群	科名	種名	学名	環境省 RL2017	
23			シマヤワラシダ	<i>Thelypteris gracilescens</i>	CR	
24			タイワンハリガネワラビ	<i>Thelypteris uraiensis</i>	EN	
25			メシダ	キリシマヘビノネゴザ	<i>Athyrium kirisimaense</i>	
26			ヤクイヌワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>	CR	
27			ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>	VU	
28	シダ植物	メシダ	サカバイヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	EN	
29			ホウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>	EN	
30			シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	CR	
31			ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>	CR	
32			ホソバシケチシダ	<i>Cornopteris fluvialis</i>	EN	
33			アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>	CR	
34			ウラボシ	タイワンクリハラシ	<i>Colysis hemionitidea</i>	VU
35		ヤクシマウラボシ	<i>Crypsinus yakuinsularis</i>	EN		
36		タイワンアオネカズラ	<i>Polypodium formosanum</i>	EN		
37		離弁花類	キンポウゲ	ヤクシマカラマツ	<i>Thalictrum filamentosum</i> var. <i>yakusimense</i>	VU
38	ウマノスズクサ			オニカンアオイ	<i>Heterotropa hirsutisepala</i>	VU
39	オトギリソウ			ヤクシマコオトギリ	<i>Hypericum yakusimense</i>	
40	ユキノシタ			ヤクシマショウマ	<i>Astilbe glaberrima</i>	
41	ヒメチャルメルソウ			<i>Mitella doiana</i>		
42	合弁花類	ツツジ	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	EN	
43			ヤクシマシャクナゲ	<i>Rhododendron degronianum</i> ssp. <i>yakusimanum</i>		
44			アクシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>	VU	
45		リンドウ	ヤクシマコケリンドウ	<i>Gentiana yakumontana</i>		
46			ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	EN	
47			ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterospermum distylum</i>	EN	
48		アカネ	ヤクシマムグラ	<i>Galium kamtschaticum</i> var. <i>yakusimense</i>		
49		シソ	ヤクシマシソバツナミ	<i>Scutellaria kuromidakensis</i>	VU	
50		オオバコ	ヤクシマオオバコ	<i>Plantago asiatica</i> var. <i>yakusimensis</i>		
51		キク	ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR	
52			ヤクシマコウモリ	<i>Cacalia hastata</i> ssp. <i>orientalis</i> var. <i>yakushimensis</i>	NT	
53			ヤクシマヒヨドリ	<i>Eupatorium yakushimense</i>	VU	
54			ヤクシマニガナ	<i>Ixeris dentata</i> f. <i>parva</i>		
55			イッスンキンカ	<i>Solidago virgaurea</i> var. <i>minutissima</i>		
56	単子葉植物	ラン	タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	EN	
57			ヤクシマラン	<i>Apostasia nipponica</i>	EN	
58			マメヅタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	NT	
59			ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	NT	
60			ミヤマムギラン	<i>Bulbophyllum japonicum</i>	NT	
61			キリシマエビネ	<i>Calanthe aristulifera</i> var. <i>kirishimensis</i>	EN	
62			ダルマエビネ	<i>Calanthe fauriei</i>	VU	
63			ツルラン	<i>Calanthe furcata</i>	VU	
64			トクサラン	<i>Calanthe gracilis</i> var. <i>venusta</i>	NT	
65			レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>	VU	
66			カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	EN	
67	ナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	VU			

No.	分類群	科名	種名	学名	環境省 RL2017
68			キバナノセッコク	<i>Dendrobium tosaense</i>	EN
69			オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	EN
70			オサラン	<i>Eria reptans</i>	VU
71			ヤクシマヤツシロラン	<i>Gastrodia albida</i>	
72	単子葉植物	ラン	ツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i>	
73			シマシュスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	VU
74			ヒメクリソラン	<i>Hancockia japonica</i>	CR
75			カゲロウラン	<i>Hetaeria agyokuana</i>	NT
76			ヤクシマアカシュスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	VU
77			ウスギムヨウラン	<i>Lecanorchis kiusiana</i>	NT
78			ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR
79			タブガワムヨウラン	<i>Lecanorchis tabugawaensis</i>	
80			アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR
81			ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virellus</i>	CR
82			チケイラン	<i>Liparis plicata</i>	VU
83			フタバラン sp.	<i>Listera</i> sp.	
84			ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i>	EN
85			ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	VU
86			ヤクシマチドリ	<i>Platanthera ophrydioides</i> var. <i>amabilis</i>	EN
87			ナガバトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> var. <i>linearifolia</i>	VU
88			コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	VU
89			ヒメトケンラン	<i>Tainia laxiflora</i>	VU
90			ヤクシマネッタイラン	<i>Tropidia nipponica</i>	EN
91			ヤクシマヒメアリドオシラン	<i>Vexillabium yakushimense</i>	NT

【目標達成の把握方法】

屋久島世界遺産地域モニタリング計画に基づき実施されている希少種・固有種の分布状況の把握調査事業におけるモニタリングサイトなど既往調査地で調査を実施する際、選定種の確認地点数・確認個体数について経年的な変化を確認し、目標達成状況を把握する。

【目標達成の確認実施地域】

現在の国内希少種等の調査事業のモニタリングサイト（107 地点）などの既往調査地とする。なお、モニタリングサイトは概ね屋久島全域に分布している。

(参考2) 環境省事業での調査対象種

表 16 (1/4) 調査対象種

No.	分類群	科名	和名	学名	鹿児島 県RDB 2003※1	鹿児島 県RDB 2016※2	環境省 RL 2017※3	種の 保存法 ※4	固有種	地生/ 着生	選定根拠の 組み合わせ※5		
											県2003 環2012	県2016 環2017	
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	ヒモヅル	<i>Lycopodium casuarinoides</i>	CR+EN	CR+EN	VU			着生	2	2	
2			ヒメスギラン	<i>Lycopodium chinense</i>	CR+EN	CR+EN				着生	5	5	
3			スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>			CR+EN	VU			着生	6	2
4			ヒモスギラン	<i>Lycopodium fargesii</i>	CR+EN	CR+EN	CR	国内			着生	2	2
5			タカネヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium nikoense</i>	VU	VU					地生	5	5
6			ヨウラクヒバ	<i>Lycopodium phlegmaria</i>	VU	CR+EN	EN				着生	2	2
7			コスギラン	<i>Lycopodium selago</i>	VU	VU					地生	5	5
8			ヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i>	NT	CR+EN	EN				着生	6	2
9			リュウキュウヒモラン	<i>Lycopodium sieboldii</i> var. <i>christenseianum</i>			CR+EN	CR			着生	6	2
10			コスギトウゲシバ	<i>Lycopodium somae</i>	CR+EN	CR+EN	CR				地生	2	2
11	ハナヤスリ	コブラン	<i>Ophioglossum pendulum</i>	CR+EN	CR+EN	EN			着生	2	2		
12	リュウビンタイ	ホンバリリュウビンタイ	<i>Angiopteris palmiformis</i>	VU	VU				地生	5	5		
13	キジノオシダ	ヤマソテツ	<i>Plagiogyria matsumureana</i>	VU	VU				地生	5	5		
14		ヒメキジノオ	<i>Plagiogyria pseudo-japonica</i>	VU	VU				地生	5	5		
15		シマヤマソテツ	<i>Plagiogyria stenoptera</i>	VU	CR+EN	CR			地生	2	2		
16		コスギダニキジノオ	<i>Plagiogyria yakumonticola</i>			VU			地生	8	5		
17	ウラジロ	カネコシダ	<i>Gleichenia laevissima</i>	VU	VU	VU			地生	2	2		
18	コケシノブ	キクモバホラゴケ	<i>Callistopteris apiifolia</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2		
19		リュウキュウホラゴケ	<i>Lacosteopsis liukiuensis</i>	VU	VU				地生	5	5		
20		シノバホラゴケ	<i>Lacosteopsis maxima</i>	NT	VU	EN			地生	6	2		
21	コバノイシカガマ	セイタカイワヒメワラビ	<i>Hypolepis tenuifolia</i>			EX			地生	6	6		
22		コウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i>	NT	NT	VU			地生	6	6		
23		ホンバコウシュンシダ	<i>Microlepia obtusiloba</i> var. <i>angustata</i>	VU	CR+EN	CR	国内	固有変種	地生	1	1		
24		フジシダ	<i>Ptilopteris maximowiczii</i>	VU	VU				地生	5	5		
25	ホングウシダ	アンナンホングウシダ	<i>Lindsaea annamensis</i>	VU	VU				地生	5	5		
26		ヒメホングウシダ	<i>Lindsaea cambodgensis</i>		VU	VU			地生	6	2		
27		シノブホングウシダ	<i>Lindsaea kawabatae</i>	CR+EN	CR+EN	CR		固有種	地生	1	1		
28		ウチワホングウシダ	<i>Lindsaea simulans</i>		CR+EN	EN			地生	6	2		
29		ホンバホラシノブ	<i>Sphenomeris chinensis</i> var. <i>stenophylla</i>	VU	VU				固有変種	地生	4	4	
30		シノブ	シノブ	<i>Davallia mariesii</i>	VU					着生	5	8	
31	ミズワラビ	キクシノブ	<i>Humata repens</i>	VU	VU	VU			着生	2	2		
32		スキヤクジャク	<i>Adiantum diaphanum</i>	CR+EN	CR+EN	NT			地生	5	5		
33		オキナワクジャク	<i>Adiantum flabellulatum</i>	NT	CR+EN				地生	8	5		
34	シシラン	タキミシダ	<i>Antrophyum obovatum</i>	CR+EN	CR+EN	EN			地生	2	2		
35		オオバシシラン	<i>Vittaria forrestiana</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2		
36	イノモトソウ	カワリバアマクサシダ	<i>Pteris cadieri</i>	VU	VU	VU			地生	2	2		
37		アシガタシダ	<i>Pteris grevilleana</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2		
38		カワバタハチジョウシダ	<i>Pteris kawabatae</i>	CR+EN	CR+EN	CR		固有種	地生	1	1		
39		ヤウラハチジョウシダ	<i>Pteris natiensis</i>		NT	EN			地生	6	6		
40		トゲハチジョウシダ	<i>Pteris setuloso-costulata</i>	NT	CR+EN	EN			地生	6	2		
41		ヒカゲアマクサシダ	<i>Pteris tokioi</i>	NT	VU	EN			地生	6	2		
42		ヤクシマハチジョウシダ	<i>Pteris yakusinaris</i>	NT	NT	VU			地生	6	6		
43		チャセンシダ	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>	VU	VU	VU			着生	2	2	
44		フササザラン	<i>Asplenium griffithianum</i>	NT	CR+EN	CR	国内		着生	6	2		
45		ミタニシダ	<i>Asplenium mitanii</i>	NT	NT			固有種	地生	7	7		
46	シシガシラ	オオギミシダ	<i>Woodwardia harlandii</i>	NT	CR+EN	VU			地生	6	2		
47	ツルキジノオ	ヒロハアツイタ	<i>Elaphoglossum tosaense</i>	CR+EN	CR+EN	VU			着生	2	2		
48		アツイタ	<i>Elaphoglossum yoshinagae</i>	CR+EN	CR+EN	VU			着生	2	2		
49	オシダ	タイワンヒメワラビ	<i>Acrophorus nodosus</i>	NT	CR+EN	VU			地生	6	2		
50		ヤクシマカナワラビ	<i>Arachniodes cavalerii</i>	CR+EN	CR+EN	VU			地生	2	2		
51		ツルダカナワラビ	<i>Arachniodes japonica</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2		
52		オノアイダカナワラビ	<i>Arachniodes pseudo-repens</i>	NT				固有種	地生	7	7		
53		ムカシベニシダ	<i>Dryopteris anadroma</i>	CR+EN	CR+EN	CR		固有種	地生	1	1		
54		ヌカイタチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i>	NT	VU				着生	8	5		
55		ホンバノヌカイタチシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>angustata</i>	CR+EN	CR+EN	CR		固有変種	地生	1	1		
56		ホウライヒメワラビ	<i>Dryopteris hendersonii</i>	VU	CR+EN	EN			地生	2	2		
57		クロミベニシダ	<i>Dryopteris kuromiensis</i>	NT	NT			固有種	地生	7	7		
58		ムラサキベニシダ	<i>Dryopteris purpurella</i>	NT	NT	CR			地生	6	6		
59		ムラサキベニシダモドキ	<i>Dryopteris purpurellodes</i>	NT	NT			固有種	地生	7	7		
60		コスギイタチシダ	<i>Dryopteris yakusilvicola</i>	CR+EN	CR+EN	NT			着生	5	5		
61		コモチイノデ	<i>Polystichum eximium</i>	NT	VU	VU			地生	6	2		
62		ナナバケシダ	<i>Tectaria decurrens</i>	NT	CR+EN				地生	8	5		
63		ヒメシダ	ハイミミガタシダ	<i>Pseudophegopteris aurita</i>	CR+EN	EW	EW			地生	2	2	
64	ヒメミゾシダ		<i>Siegopteris gymnocarpa</i> ssp. <i>ambalis</i>	NT	VU	NT			着生	8	5		
65	ホンバシヨリマ		<i>Thelypteris beddomei</i>	NT	VU				地生	8	5		
66	タイヨウシダ	<i>Thelypteris erubescens</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2			
67	シマヤワラシダ	<i>Thelypteris graciliscens</i>	VU	CR+EN	CR	国内		地生	2	2			
68	タイワンハリガネワラビ	<i>Thelypteris uraiensis</i>	NT	CR+EN	EN			地生	6	2			
69	メシダ	ウスヒメワラビ	<i>Acystopteris japonica</i>		VU				地生	8	5		
70		ホウライウスヒメワラビ	<i>Acystopteris tenuisecta</i>	NT	CR+EN	CR			地生	6	2		

表 17 (2/4) 調査対象種

No.	分類群	科名	和名	学名	鹿児島	鹿児島	環境省	種の	固有種	地生/ 着生	選定根拠の					
					県RDB 2003※1	県RDB 2016※2	RL 2017※3				保存法 ※4	県2003 環2012	県2016 環2017			
71	シダ植物	メシダ	タイワンアリスンヌワラビ	<i>Athyrium arisanense</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2				
72			カラクサイヌワラビ	<i>Athyrium clivicola</i>	NT	VU				地生	8	5				
73			シビヌワラビ	<i>Athyrium kenzo-satakei</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2				
74			キリシマヘビノネゴザ	<i>Athyrium kirisimaense</i>	NT	VU				地生	8	5				
75			ヤクイズワラビ	<i>Athyrium masamunei</i>	NT	CR+EN	CR			固有種	地生	3	1			
76			ヒメホウビシダ	<i>Athyrium nakanoi</i>	NT	VU	VU				着生	6	2			
77			イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>		VU					地生	8	5			
78			サカバサトメシダ	<i>Athyrium palustre</i>	NT	VU	VU				地生	6	2			
79			サカバインヌワラビ	<i>Athyrium reflexipinnum</i>	NT	CR+EN	EN				地生	6	2			
80			タカサゴイヌワラビ	<i>Athyrium silvicola</i>		CR+EN	CR				地生	6	2			
81			コモチイヌワラビ	<i>Athyrium stigitosum</i>	VU	CR+EN	EN				地生	2	2			
82			ホウライイヌワラビ	<i>Athyrium subrigescens</i>	VU	VU	EN				地生	2	2			
83			シマイヌワラビ	<i>Athyrium tozanense</i>	VU	VU	CR				地生	2	2			
84			ヤマイヌワラビ	<i>Athyrium vidalii</i>	NT	VU					地生	8	5			
85					ヤクシマタニイヌワラビ	<i>Athyrium yakusimense</i>	VU	VU	CR	国内	固有種	地生	1	1		
86					ホソバシケチシダ	<i>Cornopteris fluvialis</i>	NT	CR+EN	EN	国内		地生	6	2		
87					ナンゴクシケチシダ	<i>Cornopteris opaca</i> f. <i>glabrescens</i>	NT	NT	VU			地生	6	6		
88					ジャコウシダ	<i>Dictyodroma formosana</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2		
89					イワヤシダ	<i>Diplazopsis cavaleriana</i>	NT	VU				地生	8	5		
90					アオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i>	VU	CR+EN	CR	国内		地生	2	2		
91					ウスゲアオイガワラビ	<i>Diplazium kawakamii</i> f. <i>subglabratum</i>	VU	CR+EN				地生	5	5		
92					ニセシロヤマシダ	<i>Diplazium taiwanense</i>		NT	VU			地生	6	6		
93					キンモウワラビ	<i>Hypodennium crenatum</i> ssp. <i>fauriei</i>			VU			地生	6	6		
94			ウラボシ		タイワンクリハラシ	<i>Colysis hemionitidea</i>	NT	NT	VU			着生	6	6		
95					ヤクシマウラボシ	<i>Crypsinus yakusimularis</i>	VU	VU	EN			地生	2	2		
96		オニマメツタ		<i>Lepidogrammitis pyriformis</i>	CR+EN	CR+EN	CR			着生	2	2				
97		コウラボシ		<i>Lepisorus uchiyamae</i>		VU				着生	8	5				
98		サジラン		<i>Loxogramme dulouxii</i>	NT	VU				着生	8	5				
99		オオクリハラシ		<i>Microsorium fortunei</i>			VU			着生	6	6				
100		タイワンアオネカズラ		<i>Polypodium formosanum</i>	CR+EN	CR+EN	EN			着生	2	2				
101	ヒメウラボシ			ヒメウラボシ	<i>Grammitis dorsipila</i>	VU	VU	EN			着生	2	2			
102				ヒロハヒメウラボシ	<i>Grammitis nipponica</i>	NT	CR+EN	CR			地生	6	2			
103				ナガバコウラボシ	<i>Grammitis tuyamae</i>		CR+EN	EN			着生	6	2			
104	離弁花類	イラクサ	ヒメアオミズ	<i>Pilea hamanoi</i> f. <i>yakushimensis</i>	NT					固有変種	地生	7	7			
105			ヤドリギ	マルバマツグミ	<i>Taxillus kaempferi</i> var. <i>obovatus</i>	CR+EN	CR+EN				固有種	着生	4	4		
106			キンボウゲ	オオゴカヨウオウレン	<i>Coptis quinquefolia</i> var. <i>ramosa</i>	CR+EN	VU				固有種	着生	4	4		
107				ヒメキツネノボタン	<i>Ranunculus yaegatakenis</i>	CR+EN	CR+EN	NT			固有変種	着生	4	4		
108				ヒメウマノアシガタ	<i>Ranunculus yakushimensis</i>	CR+EN	CR+EN				固有変種	着生	4	4		
109				ヤクシマカラマツ	<i>Thalictrum filamentosum</i> var. <i>yakusimense</i>	CR+EN	CR+EN	VU			固有種	着生	1	1		
110			ウマノズクサ	オニカンアオイ	<i>Heterotropa hirsutisepala</i>	VU		VU			固有種	地生	1	3		
111			ツバキ	ヒメヒサカキ	<i>Eurya yakushimensis</i>	NT	VU				固有種	地生	7	4		
111			オトギリソウ	ヤクシマコトギリ	<i>Hypericum yakusimense</i>						固有変種	地生	7	7		
113			ユキノハタ	ヤクシマシヨウマ	<i>Astilbe glaberrima</i>	NT	NT				固有種	地生	7	7		
114				ヤクシマガクウツギ	<i>Hydrangea laeo-venosa</i> var. <i>yakusimensis</i>		NT	NT			固有変種	地生	7	7		
115				ヒメチャルメルソウ	<i>Mitella doiana</i>	CR+EN	CR+EN				固有種	着生	4	4		
116			バラ	ヤクシマカマツカ	<i>Phorinia villosa</i> var. <i>yakushimensis</i>	VU	VU				固有変種	地生	4	4		
117				ヤクシマヒメバライチゴ	<i>Rubus illecebrosus</i> var. <i>yakushimensis</i>	VU	VU				固有種	地生	4	4		
118				ヤクシマキイチゴ	<i>Rubus x yakumontanus</i>	NT	NT				固有種	地生	7	7		
119			カワゴケソウ	ヤクシマカワゴロモ	<i>Hydrobryum puncticulatum</i>	CR+EN	VU	EN			固有種	地生	1	1		
120			フウロソウ	ヤクシマフウロ	<i>Geranium shikokianum</i> var. <i>yoshitanum</i>	VU	CR+EN	CR			固有変種	地生	1	1		
121			ミカン	ヤクシマカラスザンショウ	<i>Zanthoxylum yakumontanum</i>	NT	NT	VU			固有種	地生	3	3		
122			カエデ	ヤクシマオナガカエデ	<i>Acer morifolium</i>			分重			固有変種	地生	7	7		
123			ジンチョウゲ	シヤクナンガンビ	<i>Daphnimorpha kudoii</i>	CR+EN	CR+EN	VU			固有種	地生	1	1		
124			グミ	ヤクシマグミ	<i>Elaeagnus yakusimensis</i>	VU	VU	EN			固有種	地生	1	1		
125			スミレ	コケスミレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>yakusimana</i>	CR+EN	CR+EN				固有変種	地生	4	4		
126			セリ	ヤクシマノダケ	<i>Angelica yakusimensis</i>	NT	NT	VU			固有変種	地生	3	3		
127			合弁花類	ツツジ	ヤクシマヨウラクツツジ	<i>Menziesia yakushimensis</i>	VU	VU	EN			固有種	地生	1	1	
128					ヤクシマシヤクナゲ	<i>Rhododendron agrifolium</i> ssp. <i>yakusimense</i>	NT	NT				固有変種	地生	7	7	
129					ヤクシマヤマツツジ	<i>Rhododendron yakusimulare</i>	NT	VU	VU			固有種	地生	3	1	
130					ヤクシマミツバツツジ	<i>Rhododendron yakumontanum</i>	NT	NT	VU			固有変種	地生	3	3	
131					アケシバモドキ	<i>Vaccinium yakushimense</i>	CR+EN	CR+EN	VU				固有種	着生	1	1
132					サクランソウ	ヒメコナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> var. <i>minutissima</i>	VU	VU				固有変種	地生	4	4
133			リンドウ	ヤクシマコケリンドウ	<i>Gentiana yakumontana</i>						固有変種	地生	7	7		
134			ヤクシマリンドウ	<i>Gentiana yakushimensis</i>	CR+EN	CR+EN	EN	特国内	固有種	地生	1	1				
135			ハナヤマツルリンドウ	<i>Tripterispermum distylum</i>	CR+EN	CR+EN	EN	国内	固有種	地生	1	1				
136	アカネ	ヤクシマムグラ	<i>Galium kantsuaticum</i> var. <i>yakusimense</i>	NT	NT				固有変種	地生	7	7				
137		ヤクシマハシカグサ	<i>Neonotis hirsuta</i> var. <i>yakushimensis</i>	VU	CR+EN				固有変種	地生	4	4				
138	シソ	コケトウバナ	<i>Clinopodium multicaule</i> var. <i>minimum</i>	VU	CR+EN	NT			固有変種	地生	4	4				
139			ヤクシマナミキ	<i>Scutellaria kuromidakensis</i>	CR+EN	VU	VU			固有変種	地生	1	1			
140	ゴマノハグサ	ヤクシマママコナ	<i>Melampyrum laxum</i> var. <i>yakusimense</i>	VU	VU				固有変種	地生	4	4				

表 18 (3/4) 調査対象種

No.	分類群	科名	和名	学名	鹿児島 県RDB 2003※1	鹿児島 県RDB 2016※2	環境省 RL 2017※3	種の 保存法 ※4	固有種	地生/ 着生	選定根拠の 組み合わせ※5 県2003 環2012	県2016 環2017	
141	合弁花類	ゴマノハグサ	ヤクシマシオガマ	<i>Pedicularis ochiaiana</i>	VU	CR+EN	VU		固有種	地生	1	1	
142		オオバコ	ヤクシマオオバコ	<i>Plantago asiatica</i> var. <i>yakusimensis</i>	NT	NT			固有変種	地生	7	7	
143		スイカズラ	マルバヤマシグレ	<i>Viburnum urceolatum</i> f. <i>brevifolium</i>	NT				固有変種	地生	7	7	
144		キク	ホソバハグマ	<i>Ainsliaea fauriei</i>	NT	NT				固有種	地生	7	7
145			ヤクシマウスユキソウ	<i>Anaphalis sinica</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR+EN	CR+EN	CR			固有変種	地生	1	1
146			ヤクシマノギク	<i>Aster yakushimensis</i>	CR+EN	CR+EN	CR			固有種	地生	1	1
147			ヤクシマコウモリ	<i>Cnicus hatai</i> sp. <i>orientalis</i> var. <i>yakushimensis</i>	NT	NT	NT			固有変種	地生	7	7
148			ヤクシマヒヨドリ	<i>Eupatorium yakushimense</i>	VU	VU	VU			固有種	地生	1	1
149			ヤクシマニガナ	<i>Ixeris dentata</i> f. <i>parva</i>	NT					固有種	地生	7	7
150			コスギニガナ	<i>Ixeris yakusimularis</i>	VU	VU	VU			固有種	地生	1	1
151			ヒメキクタバコ	<i>Myriactis japonensis</i>	VU	VU	EN			固有種	地生	1	1
152			シマコウヤボウキ	<i>Pertya yakushimensis</i>	CR+EN	CR+EN	EN			固有種	地生	1	1
153			ヤクシマヒゴタイ	<i>Saussurea nipponica</i> var. <i>yakusimensis</i>		CR+EN	CR	特国内	固有変種	地生	3	1	
154			イッスンキンカ	<i>Solidago virgaurea</i> var. <i>minutissima</i>	CR+EN	CR+EN				固有変種	地生	4	4
155	単子葉植物	ホンゴウソウ	ヤクシマソウ	<i>Sciaphila yakusimensis</i>			国内		固有種	地生	8※6	8※6	
156		ユリ	ヤクシマイトラッキョウ	<i>Allium virginicae</i> var. <i>yakushimense</i>	CR+EN	CR+EN	EN			固有変種	地生	1	1
157			ヒュウガギボウシ	<i>Hosta kikutii</i>	VU	VU				固有変種	地生	4	4
158			ヤクシマチャボゼキシヨウ	<i>Tofieldia nuda</i> var. <i>yoshihana</i>	VU	VU				固有変種	地生	4	4
159		イグサ	ヤクシマズメノヤリ	<i>Luzula multiflora</i> var. <i>yakushimensis</i>	NT	NT				固有変種	地生	7	7
160		ホシクサ	ヤクシマホシクサ	<i>Eriocaulon hananoegoense</i>	CR+EN	CR+EN				固有種	地生	4	4
161		イネ	ヤクシマノガリヤス	<i>Calamagrostis masamunei</i>	CR+EN	CR+EN	VU			固有種	地生	1	1
162			ヤクシマヤダケ	<i>Pseudosasa owatarii</i>	NT	NT				固有種	地生	7	7
163		サトイモ	ヤクシマヒロハテンナンショウ	<i>Arisaema longicaudatum</i> var. <i>yakusimense</i>	CR+EN	CR+EN	CR			固有変種	地生	1	1
164			ヤクシマテンナンショウ	<i>Arisaema yakushimense</i>						固有種	地生	7	7
165		カヤツリグサ	ヤクシマズグ	<i>Carex atroviridis</i>	CR+EN	CR+EN				固有変種	地生	4	4
166			ヤクシマカンスグ	<i>Carex morrowii</i> var. <i>laxa</i>	VU	VU	NT			固有変種	地生	4	4
167			チャボカワズグ	<i>Carex omiana</i> var. <i>yakushimana</i>	CR+EN	CR+EN	CR			固有変種	地生	1	1
168		ラン	タイワンアオイラン	<i>Acanthophippium striatum</i>			EX	EX			地生	6	2
169			タイワンシヨウキラン	<i>Acanthophippium sylhetense</i> var. <i>syhetense</i>	地絶	CR+EN	CR				地生	2	2
170			エンレイシヨウキラン	<i>Acanthophippium yamamotoi</i>	CR+EN	CR+EN	CR				地生	2	2
171			オキナワチドリ	<i>Amitostigma lepidum</i>	分重	NT	VU				地生	6	6
172			コウシュンシュスラン	<i>Anoetochilus koshunensis</i>				CR	国内		地生	6	6
173			タネガシマムヨウラン	<i>Aphyllorchis montana</i>	VU	VU	EN				地生	2	2
174			ヤクシマラン	<i>Apostasia nipponica</i>	CR+EN	CR+EN	EN				地生	2	2
175			マメヅタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	VU	VU	NT				着生	5	5
176			ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	VU	VU	NT				着生	5	5
177			ミヤマムギラン	<i>Bulbophyllum japonicum</i>	VU	VU	NT				着生	5	5
178			タネガシマシコウラン	<i>Bulbophyllum macraei</i> var. <i>tanegashimense</i>	CR+EN	CR+EN	CR				着生	2	2
179			シコウラン	<i>Bulbophyllum makinoanum</i>	CR+EN	CR+EN	EN				着生	2	2
180			キリシマエビネ	<i>Calanthe arisanjfera</i> var. <i>kirishimensis</i>	CR+EN	CR+EN	EN				地生	2	2
181			エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	VU	VU	NT				地生	5	5
182			ダルマエビネ	<i>Calanthe fauriei</i>	CR+EN	CR+EN	VU				地生	2	2
183			ツルラン	<i>Calanthe furcata</i>	VU	VU	VU				地生	2	2
184		トクサラン	<i>Calanthe gracilis</i> var. <i>venusta</i>	VU	CR+EN	NT				地生	5	5	
185		レンギョウエビネ	<i>Calanthe lyroglossa</i>	CR+EN	CR+EN	VU				地生	2	2	
186		オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	VU	CR+EN	VU				地生	2	2	
187	キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>	VU	VU	EN				地生	2	2		
188	ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	CR+EN	CR+EN					地生	5	5		
189	タネガシマカイロラン	<i>Cheirostylis liukiuensis</i>	CR+EN	CR+EN	VU				地生	2	2		
190	シュラン	<i>Cymbidium goeringii</i>	VU	NT					地生	5	8		
191	アキガキナギラン	<i>Cymbidium javanicum</i> var. <i>aspidarfolium</i>	CR+EN	CR+EN	EN				地生	2	2		
192	カンラン	<i>Cymbidium kanran</i>	CR+EN	CR+EN	EN				地生	2	2		
193	ナギラン	<i>Cymbidium lancifolium</i>	NT	NT	VU				地生	6	6		
194	マヤラン	<i>Cymbidium nipponicum</i>	CR+EN	CR+EN	VU				地生	2	2		
195	ホウサイ	<i>Cymbidium sinense</i>	CR+EN	CR+EN	CR				着生	2	2		
196	キバナノセッコク	<i>Dendrobium tosaense</i>	VU	VU	EN				着生	2	2		
197	コカゲラン	<i>Didymoplexilla siamensis</i>	CR+EN	CR+EN	CR				地生	2	2		
198	ヒメヤツシロラン	<i>Didymoplex pallens</i>	CR+EN	CR+EN	EN				地生	2	2		
199	タシロラン	<i>Epipogium roseum</i>	VU	VU	NT				地生	5	5		
200	オオオサラン	<i>Eria corneri</i>	CR+EN	CR+EN	EN				着生	2	2		
201	オサラン	<i>Eria reptans</i>	VU	VU	VU				着生	2	2		
206	イモネヤガラ	<i>Eulophia zollingeri</i>	CR+EN	CR+EN	EN				地生	2	2		
202	タカツラン	<i>Galeola altissima</i>	CR+EN	CR+EN	CR				地生	2	2		
203	ツチアケビ	<i>Galeola septentrionalis</i>	NT	VU					地生	8	5		
204		ヤクシマヤツシロラン	<i>Gastrodia albida</i>				国内		地生	8※6	8※6		
205		ハルガキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>	VU	VU	VU			地生	2	2		
207		タケシマヤツシロラン	<i>Gastrodia takeshimensis</i>						地生	8※6	8※6		
208		タブガワヤツシロラン	<i>Gastrodia uraiensis</i>				国内		地生	8※6	8※6		
209		アキガキヤツシロラン	<i>Gastrodia verrucosa</i>	VU	CR+EN				地生	5	5		
210		タブガワムヨウラン	<i>Lecanorchis tabugawaensis</i>					固有種	地生	7※6	7※6		

表 19 (4/4) 調査対象種

No.	分類群	科名	和名	学名	鹿児島 県RDB 2003※1	鹿児島 県RDB 2016※2	環境省 RL 2017※3	種の 保存法 ※4	固有種	地生/ 着生	選定根拠の 組み合わせ※5 県2003 環2012	県2016 環2017
211	単子葉植物	ラン	シライトシュスラン	<i>Goodyera hachijoensis</i> var. <i>leuconeura</i>	分重	CR+EN				地生	8	5
212			ツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i>	VU	VU				着生	5	5
213			シマシュスラン	<i>Goodyera viridiflora</i>	VU	VU	VU			地生	2	2
214			ダイサギソウ	<i>Habenaria dentata</i>	VU	CR+EN	EN			地生	2	2
215			ムカゴトンボ	<i>Habenaria flagellifera</i>	NT	NT	EN			地生	6	6
216			タカサゴサギソウ	<i>Habenaria lacertifera</i>	CR+EN	CR+EN				地生	5	5
217			ヒメクリソラン	<i>Hancockia japonica</i>	CR+EN	CR+EN	CR	国内	固有種	地生	1	1
218			ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i> var. <i>longicrure</i>	分重	NT	EN			地生	6	6
219			カゲロウラン	<i>Hetaeria agvokuana</i>	VU	VU	NT			地生	5	5
220			ヒメノヤガラ	<i>Hetaeria sikokiana</i>	VU	VU	VU			地生	2	2
221			ヤクシマアカシュスラン	<i>Hetaeria yakusimensis</i>	分重	NT	VU			地生	6	6
222			オキナワムヨウラン	<i>Lecanorchis cerina</i>	CR+EN	CR+EN	NT			地生	5	5
223			ムヨウラン	<i>Lecanorchis japonica</i>	VU	VU				地生	5	5
224			ウスギムヨウラン	<i>Lecanorchis kiusiana</i>	CR+EN	VU	NT			地生	5	5
225			クロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i>	CR+EN	CR+EN				地生	5	5
226			ヤクムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>yakusimensis</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2
227			ムラサキムヨウラン	<i>Lecanorchis purpurea</i>	CR+EN	DD	DD			地生	5	8
228			アワムヨウラン	<i>Lecanorchis trachycaula</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2
229			ミドリムヨウラン	<i>Lecanorchis virellus</i>		CR+EN	CR			地生	6	2
230			ギボウシラン	<i>Liparis auriculata</i>	NT	VU	EN			地生	6	2
231			コゴメキノエラン	<i>Liparis elliptica</i>	CR+EN	CR+EN	CR	国内		着生	2	2
232			セイダカスズムシソウ	<i>Liparis japonica</i>	VU	VU				地生	5	5
233			ジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i>	VU	VU				地生	5	5
234			キバナコ克蘭	<i>Liparis nigra</i> var. <i>saotenzanensis</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2
235			ササバラ	<i>Liparis odorata</i>	VU	CR+EN	EN			地生	2	2
236			チケイラン	<i>Liparis plicata</i>	分重	VU	VU			着生	6	2
237			ヒメフタバラン	<i>Listera japonica</i>	NT	VU				地生	8	5
238			アオフタバラン	<i>Listera makinoana</i>	CR+EN	CR+EN				地生	5	5
239			ツクシアリドオシラン	<i>Myrmechis tsukusiana</i>	CR+EN	CR+EN	CR			地生	2	2
240			フウラン	<i>Neofinetia falcata</i>	CR+EN	CR+EN	VU			着生	2	2
241			ムカゴサイシ	<i>Nervilia nipponica</i>	CR+EN	CR+EN	EN			地生	2	2
242			ヨウラクラン	<i>Oberonia japonica</i>	VU	VU				着生	5	5
243			オオバヨウラクラン	<i>Oberonia variabilis</i>	DD	DD	CR			着生	6	6
244			イナバラ	<i>Odontochilus inabae</i>	CR+EN	CR+EN				地生	5	5
245			ガンゼキラン	<i>Phaius flavus</i>	CR+EN	VU	VU			地生	2	2
246			カクチョウラン	<i>Phaius tancarvilleae</i>	CR+EN	CR+EN	VU			地生	2	2
247			アマミトンボ	<i>Platanthera amamiana</i>	VU	VU	VU			地生	2	2
248			ヤクシマトンボ	<i>Platanthera anboensis</i>	VU	VU	CR		固有種	地生	1	1
249			ジンバイソウ	<i>Platanthera florentii</i>	CR+EN	CR+EN				地生	5	5
250			オオバトソウ	<i>Platanthera minor</i>	VU	NT				地生	5	8
251			ヤクシマチドリ	<i>Platanthera ophrydioides</i> var. <i>anabilis</i>	VU	VU	EN		固有種	地生	1	1
252			ナガバトソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> var. <i>linearifolia</i>	VU	VU	VU			地生	2	2
253			ツクシチドリ	<i>Platanthera yakumontana</i>	VU	VU	EN			地生	2	2
254			トキノウ	<i>Pogonia japonica</i>	DD	CR+EN	NT			地生	8	5
255			ヤマトキノウ	<i>Pogonia minor</i>	VU	VU				地生	5	5
256			マツゲカヤラン	<i>Saccolabium ciliare</i>	CR+EN	CR+EN	CR		固有種	着生	1	1
257			カシノキラン	<i>Saccolabium japonicum</i>	分重	VU	VU			着生	6	2
258			マツラン	<i>Saccolabium matsuran</i>	CR+EN	CR+EN	VU			着生	2	2
259			ナゴラン	<i>Sedirea japonica</i>	CR+EN	CR+EN	EN			着生	2	2
260			コオロギラン	<i>Stigmatodactylus sikokianus</i>	CR+EN	CR+EN	VU			地生	2	2
261			ヒメケンラン	<i>Tainia laxiflora</i>	VU	VU	VU			地生	2	2
262			ヤクシマネッタイラン	<i>Tropidia nipponica</i>	CR+EN	CR+EN	EN			地生	2	2
263			ヤクシマヒメアリドオシラン	<i>Vexillabium yakushimense</i>	VU	VU	NT			地生	5	5
264			キバナノシヨウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	CR+EN	CR+EN	EN			地生	2	2
265			シヨウキラン	<i>Yuania japonica</i>	CR+EN	CR+EN				地生	5	5
266			イシガキキヌラン	<i>Zeuxine flava</i>	VU	VU	VU			地生	2	2
267			キヌラン	<i>Zeuxine strateumatica</i>	VU	VU				地生	5	5

※ 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年6月5日法律第75号）

特国内：特定国内希少野生動植物種

国内：国内希少野生動植物種

■：特定国内希少野生動植物種または国内希少野生動植物種

※ 新記載種（ヤクシマソウ、タケシマヤツシロラン、タブガワムヨウラン）および日本新産種（ヤクシマヤツシロラン、タブガワヤツシロラン）

（「平成29年度屋久島における国内希少野生動植物種等の保護対策検討業務報告書」より掲載）

2. 今後のスケジュール

平成 30 年度第 2 回ヤクシカ WG において目標案、目標達成状況の把握方法・確認地域について諮問し、各委員の意見を踏まえた上で平成 30 年度の成果としてとりまとめる。但し、森林生態系の管理目標は順応的なものとし、平成 31 年度以降は各目標に対する現状での評価と各対策の優先度の検討のほか、新たな知見や目標達成状況から内容の修正・追加等が可能なものとする。

また、目標達成の評価については、各行政機関で実施しているヤクシカ対策や植生保護対策の結果との関係も見ていくものとする。

表 20 今後のスケジュール（案）

時期	取組内容	備考
2018 年度 (平成 30 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・各目標案の確定 ・目標達成状況の把握方法、確認地域の確定 	目標は必要に応じて修正・追加等が可能な順応的なものとする。
2019 年度～ (平成 31 年度～)	<ul style="list-style-type: none"> ・各目標に対する現状把握と現状評価 ・ヤクシカ対策、植生保護対策等の各対策の優先度、対策強化地域の検討等 	目標達成の現状評価については、各行政機関で実施しているヤクシカ対策や植生保護対策の結果との関係も踏まえるものとする。